

附属やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標:発見し、はくくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よき未来を共に創り出す人間

第4号 2021年10月26日(火)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

児童・生徒の『学びの姿』からはじまる附属やまぐち学園・教育学部の『学び』

山口大学教育学部 鷹岡 亮

地域みなさま、保護者みなさまにおかれましては、平素より、附属やまぐち学園の教育・研究に対しまして、ご支援・ご協力頂きありがとうございます。

この原稿を執筆させて頂いている休日の昼間、近所から子ども達の元気な声が聞こえてきます。大きな笑い声、時には泣き声、元気のよい何か目標にむけて子どもたちが動いている様子まで、子ども達の声は我々に元気と学びを与えてくれます。一方、平日の朝、我が家から外に目を向けると、カバンを背負った附属の子ども達が、一人で歩いている子は前を向いて、複数人で歩いている子ども達は楽しげに通学する様子が伺えます。その昔大内に住んでいた頃には、眠い目をこすりながらお母さんに手をひかれバス停に向かう1年生の姿も目にしました。子どもたちは、地域の皆さまに見守られ安全を確保して頂いて『安心』しながら、時には「歩き方」や「バスの乗り方」などについてご指導を頂きながら、成長のための『学び』を日々頂いていると思います。本当にありがたく思っております。

このような地域の皆さまに見守られながら成長を続けている児童・生徒さんですが、教員や教育実習生にとっては、自分自身の授業力や指導力を向上させるためのいわば「先生」になります。先週、大学3年生の教育実習が終了しました。コロナ禍での教育実習になりますから保護者の皆さまにおかれましてもご心配の状況もあったかと思えます。このような状況のなかで学びの機会を学生に与えて頂きありがとうございました。その教育実習を参観させて頂いた際、目にするのが、実習生の最後の授業の後、児童・生徒さんがサプライズをして頂く場面です。先日も小学校でそのような場面にあう機会がありました。「短い期間でしたが、とってもしっかりとありがとうございました」というリードする児童さんの心のこもった挨拶にクラス全員の児童さんが続きました。その後実習生は「みんなが一生懸命授業をつくろうとしてくれているのに上手いかななくて…本当に悔しいです。大学に戻って一生懸命勉強して、また皆さんと授業をつくっていきたいです。ありがとうございました」と児童さんにむかって挨拶をしました。授業をうけるのではなく「授業をみんなで作っていきましょう」とする児童・生徒さんの姿は、先生方が4月からクラスの目指すべき姿として積み上げて頂いた結果(成果)です。授業のなかで安心して手をあげることができたり、間違いはみんなの学びにつながるという意識などが「授業をみんなで作る」ことにつながっていきますので、授業の基盤となる児童・生徒指導を含めた学級づくりを丁寧に先生方が行っていることもみてとれます。このようなことを4月から先生とともに

くりあげてきている児童・生徒さんですから、教育実習生とよい学びをつくりあげようという気持ちをもってくれます。私は教員免許を持っていない授業の素人ですが、そのようなクラスで参観をさせて頂くと、私自身も学びに対して前向きにワクワク・ドキドキできます。幼稚園・小学校・中学校時代に、こんなクラスで遊んだり・学んだりしたかったなあ…とそう思えるほどです。このような状況で教育実習生が授業をおこなう訳ですから、児童・生徒さんの学びへの想いと自身の授業力のギャップを感じます。それを「悔しい」という言葉で表現してくれた教育実習生にとっては「心が動いた」瞬間であったと思います。先日の研修会で「心が動けば、身体が動く」と学ばせて頂きましたが、我々教員が学部生や院生の心を動かすために四苦八苦しているなかで、児童・生徒さんの学びにむかう態度やその姿は、いとも簡単にそのポイントを提供してもらえる学部生・院生の「先生」です。

この「先生」に学ばせてもらっているのは、学部生・院生だけではありません。附属学校園の先生方も、日々、園児・児童・生徒の「学びの姿」に学ばせてもらい、園児・児童・生徒に『よりよい』学びの機会を提供したいと努力して頂いています。近年、山口県の学校教員の年齢構成が若い方に傾いているのと同様に、附属学校園の先生方の年齢構成も若くなっています。一方で、先生方には、今後の山口県教育の状況や特徴を踏まえた上で「令和の日本型学校教育」の山口版を山口県内の先生方や教育委員会さんと連携・協働しながらつくりあげ、それを山口県内に還元していくことをお願いしている状況です。具体的には、幼小中一貫教育を中心に、コミュニティ・スクール、地域のニーズに対応した教育カリキュラムモデル、授業における ICT 活用と教育の情報化、地域連携、子どもの就学支援等々、多岐にわたる研究内容になります。このような状況にも関わらず、附属学校園の先生方には、非常に前向きに研究に取り組んで頂いており、働き方改革の観点から校長先生や教頭先生、我々教育学部側が少しセーブして働いて頂くようお願いするほどになっています。附属学校園において授業力や児童・生徒への指導力を向上させていきたいという先生方ご自身の想いを、研究大会を中心にした、対面における小規模研修会や授業公開、さらにはオンデマンドによる年間を通じた授業研究環境も含めて、学部教員の協働、附属学校園の OG・OB の先生方などのご支援も頂きながら進めていき、園児・児童・生徒さんたちへのよりよい学びとして還元していく所存です。また、附属やまぐち学園としての学びの文化資本（ソーシャル・キャピタル）は、園児・児童・生徒、教職員、学生、大学教員だけでなく、保護者の皆さま、そして広い地域の皆さまを巻き込んだ場が基礎・基盤になると考えております。今後、学校運営協議会などのご協力・ご支援を頂きながら、保護者や地域の皆さまとの学びによる交流も、大学の附属学校園という強みをいかして進めていきたいと考えております。

園児・児童・生徒さんには、その学びの姿から、日々、我々大人（附属学校園教職員、学生、教育学部教員）が学ばせて頂いています。皆さまにおかれましては、引き続き、園児・児童・生徒、教職員、学生の学びに対して、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【附属幼稚園】

9月2日から2週間、オプション教育実習、9月21日から4週間、基本教育実習がありました。この間子どもたちは、保育者と実習生とで考え工夫した教材や環境にかかわって造形的な遊びや運動的な遊び、行事など様々な遊びや生活を楽しみました。運動会に向かう生活では、実習生が準備や応援で子どもたちを盛り上げてくれたり、お別れ会では劇を見せてくれたりして、その後の園児の生活がとても充実しました。子どもたちは実習生からたくさん刺激をもらい、実習生は子どもたちからの信頼を受けて、双方にとって実りのある実習となりました。



運動会楽しいね！



ロケットよく飛ぶよ



実習生の劇や踊り楽しかった。私達もやりたいな。

【附属山口小学校】

9月後半から後期教育実習が始まりました。後期は、2つの実習グループが各8日間の実習に取り組みました。実習生は、放課後に繰り返し模擬授業を行ったり、教具を作ったりするなど、授業の準備をしていました。子どもたちにとっても実習生にとっても多くの学びがある後期教育実習となりました。

オンラインでの授業がさまざまな教科や学年で行われています。自動車工場の見学、災害対応避難訓練指導など、真剣な眼差しで画面を見つめる子どもたちの姿に新しい学びの形を見ることができました。今後も、子どもたちの学びのためにオンライン授業を活用する機会が増えてくると思われます。



放課後に教材研究



実習生の実地授業



オンラインで社会見学



災害対応避難訓練指導

【附属山口中学校】

附属中学校の学園祭は9月11日、12日の2日間で文化部門、体育部門と部門をわけて行われました。学園祭テーマ「統星」(すばる)～「煌めき」から「輝き」～を掲げ、個性(星)が集まり、周りを一段と輝かすことのできる存在となることをめざしました。文化部門の企画や運営、体育部門の競技種目、ルール、練習、当日の運営など、ほとんどを生徒主体で行いました。だからこそ子どもたちは大きな達成感を得ることができました。



書道パフォーマンス



弦楽合奏部の演奏(指揮:校長)



3年生の学年競技